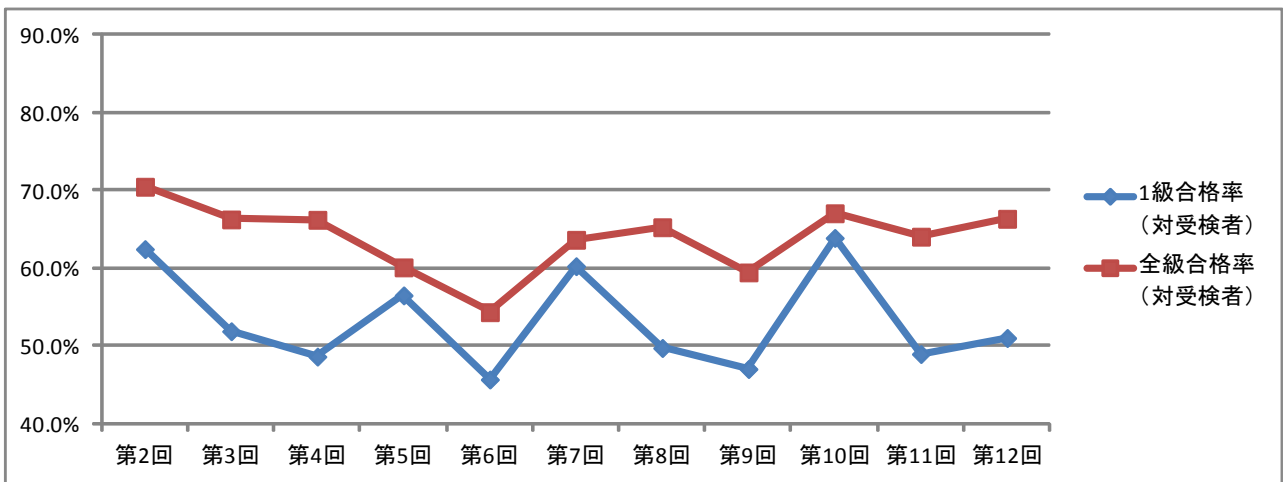


1 級

【3】1 級の傾向とアドバイス

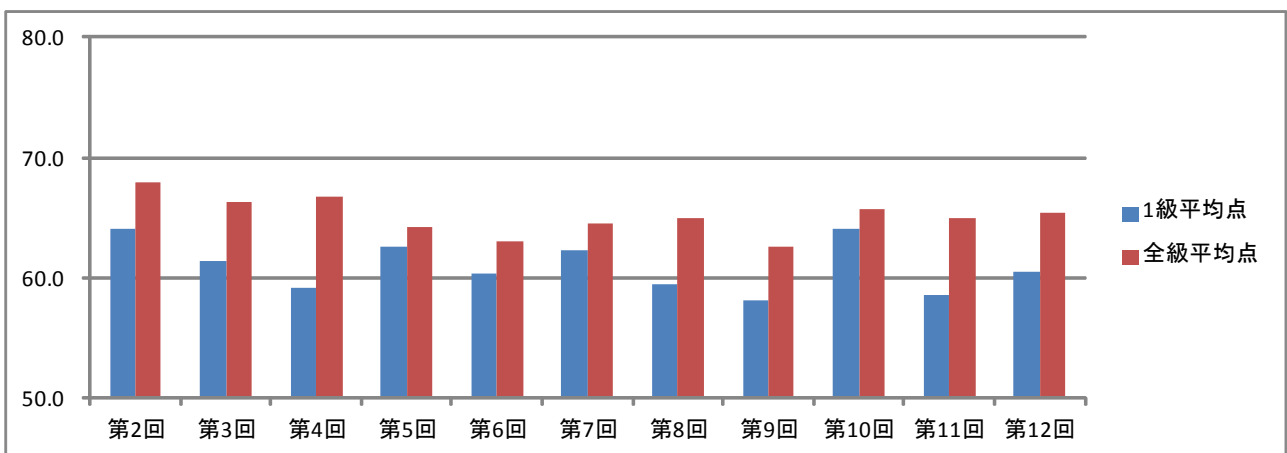
1 級はその名のとおりに、生産マイスター検定の最高峰であり、管理者層が対象です。そのため、例年合格率、平均点ともに他の級よりも低く、高い難易度になっています。第 12 回もまったく同じ傾向になりましたが、合格率：第 11 回 49.0%→第 12 回 51.1%、平均点：第 11 回 58.6 点→第 12 回 60.5 点と、わずかながらも高くなっています。第 12 回が残念な結果に終わった方、そしてこれから新しく受検される方は、ぜひ本書を参考にして第 13 回の合格を目指していただきたいと思います。

● 1 級の合格率<未認定者含む、第 1 回は 1 級と 2 級未実施>



1級	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回
申込者数	24	77	124	150	252	161	216	160	257	157	241
受検者数	24	77	115	145	247	156	205	155	244	153	231
合格者数	15	40	56	82	113	94	102	73	156	75	118
合格率 (対受検者)	62.5%	51.9%	48.7%	56.6%	45.7%	60.3%	49.8%	47.1%	63.9%	49.0%	51.1%

● 1 級の平均点<第 1 回は 1 級と 2 級未実施>



	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回
1級平均点	64.0	61.4	59.1	62.6	60.3	62.3	59.5	58.1	64.0	58.6	60.5
全級平均点	67.9	66.3	66.8	64.2	63.0	64.5	65.0	62.6	65.7	64.9	65.4

■出題方針・内容

生産マイスター検定では「役割、品質、コスト、納期・生産管理、安全・環境」の5分野について、50問題（ベーシック級のみ60問題）、合計100点の構成になっていることが大きな特徴です。「ものづくりのプロ」として必須の総合的な知識を証明する「生産部門の必須資格」のため、皆さんがテキストをきちんと学習しているか、本質的に理解しているか、そして日々の現場で活用しているかに重きを置いた基本的かつ発展性をもたせた問題になっています。

したがって、1級では『損益分岐点の計算』や『標準原価管理を予算管理に組み込むうえで留意すべき点』『不良率の低減とコスト変動の計算』『保全の分類と分担の理解』『SCM・生産管理の今後の課題』のような問題が出題されますので、テキストをきちんと学習し理解すれば、解答できる内容になっています。もちろん、多肢選択、語群選択、計算問題、ミニケース問題などのように、問題形式によって難易度や配点が変わりますが、受検に合わせ、日ごろの業務に結びつけた学習を進めていただければ十分合格に結びつくものと思います。

なお、「役割」は管理者である皆さんが毎日当たり前に考え行動しているマネジメントそのものです。例えば、『経営トップから、部門管理者として期待されている役割』や『(ミニケース問題において)今回行った様々な対応の中で、管理者として不適切であった行動』などは、日ごろの業務に直結する内容です。この機会を利用して日ごろの考えや行動・判断を整理したり確認する場として学習してください。

単位	出題内容
<第1単位テキスト> ■役割	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者の具体的な役割、管理者に求められる能力 ・経営志向領域、管理レベル・経営環境と企業業績、総合経営力 ・事業部制組織、インテグレートコミュニケーション、実質的権限、日本における経営行動 ・管理者の役割と行動、リスクを想定する
<第2単位テキスト> ■コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・損益分岐点の計算、実際ロスとコストキーピング ・与件変動、予算管理と標準原価管理 ・設計変更ロス(失われた機会ロス、埋没コスト)の計算、VRP ・コスト変動の認識、稼働率の向上に向ける場合の効果予想の計算 ・品質に関するコストリダクション(歩留りの改善とコスト変動、不良率の低減とコスト変動)の計算
<第3単位テキスト> ■品質	<ul style="list-style-type: none"> ・VE、品質計画と設計、品質ビジョンと品質戦略 ・工場における品質保証の基本、工程能力指数、抜き取り検査(AQL)の計算、信頼性 ・保全の分類と分担、標準化と規格化 ・品質リスクをとらえる、品質リスクマネジメントの構築、品質リスクマネジメントの実践
<第4単位テキスト> ■納期・生産管理	<ul style="list-style-type: none"> ・キャッシュコンバージョンサイクルの計算 ・在庫計画の目的、流動数分析、在庫適正化、基準在庫の意義と設定、生産計画と統制(計画管理と進捗管理) ・SCMのリスクマネジメント、ブルウィップ効果、SCM改革のパターン、SCM・生産管理の今後の課題
■安全・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・安全管理の効果的な進め方、OHSAS18001、安全文化 ・資源生産性、MFCA

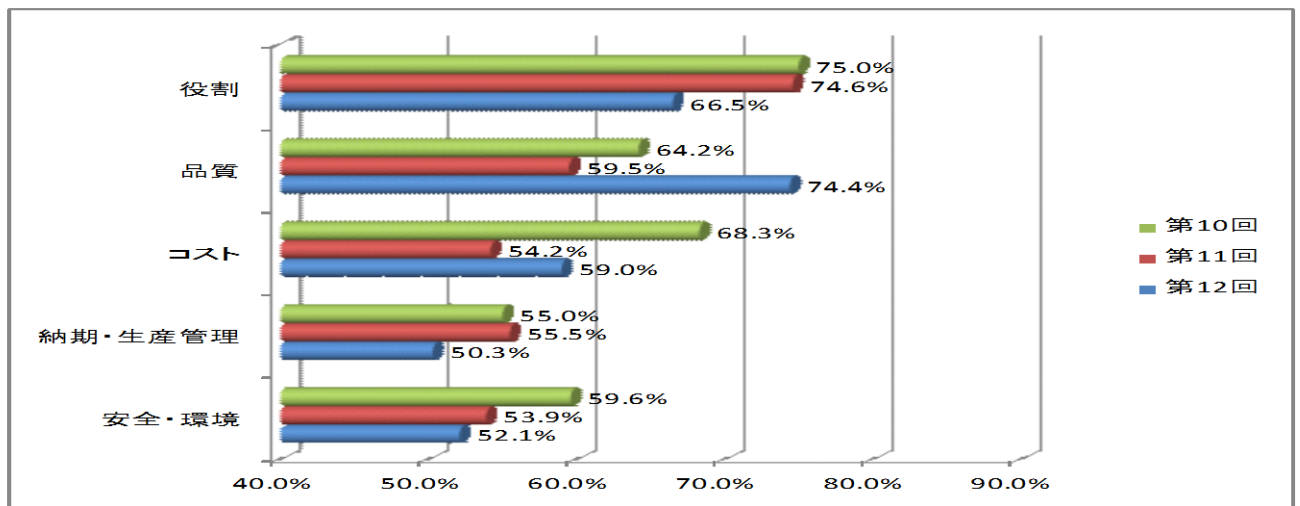
■正答率と弱点項目

前述のとおり、第12回は第11回に比べ若干合格率が上がっていますが、「役割」「納期・生産管理」「安全・環境」は残念ながら第11回よりも芳しくありません。

特に、管理者である皆さんにとって必須の知識ともいえる「納期・生産管理」の『キャッシュコンバージョンサイクル』の正答率が低いことはとても残念です。キャッシュフロー、キャッシュコンバージョンサイクルの改善・改革の視点である『情報の流れの改革、ものの流れの改革、お金の流れの改革、情報・もの・お金の流れにかかわる全体システムの構築（SCMの実現）』を活用し、自社の状況を鑑みて改善・改革を検討することは管理者必須の業務です。その『検討する際のモノサシであるキャッシュコンバージョンサイクル』を理解していなければ、大きな改革はできません。

また、「コスト」は第11回よりも正答率が良かったとはいえ、『不良率の低減とコスト変動の計算』はいま一つです。ぜひ、テキストを復習し理解を確実にしてください。

なお、「品質」の得点率が59.5%→74.4%と急上昇していることは特筆すべきことです。日ごろの皆さんの業務に対する姿勢と努力がそのまま表れているものと思います。



分野	弱点項目
■役割	・管理者の役割と行動
■品質	※弱点項目は、特になし
■コスト	・予算管理と標準原価管理 ・設計変更ロス(埋没コスト)の計算、VRP ・品質に関するコストリダクション(不良率の低減とコスト変動)の計算
■納期・生産管理	・キャッシュコンバージョンサイクルの計算 $\text{売上債権回転日数} = \frac{\text{売上債権額}}{\text{売上高}} \times 365\text{日}$ $\text{棚卸資産回転日数} = \frac{\text{棚卸資産額}}{\text{売上原価}} \times 365\text{日}$ $\text{仕入債務回転日数} = \frac{\text{平均仕入債務額}}{\text{売上原価}} \times 365\text{日}$ キャッシュコンバージョンサイクルは、売上債権回転日数+棚卸資産回転日数-仕入債務回転日数 ・基準在庫の意義と設定、SCM改革のパターン
■安全・環境	・安全管理の効果的な進め方 ・資源生産性